

# 第11回よむゾーくん大賞

## 作品集(入賞上位12作品)

平成30年に読んだ本で、「感動した!」、「大好き!」、「これはいい!」など、藤枝市内の学生がおすすめしたい本を文章と絵で紹介する「作品」を募集しました。入賞された上位12作品を紹介させていただきます。

### 市長賞 小学生低学年部門

小学校 3年生 H.A さん

「霧のむこうのふしぎな町」

講談社

柏葉 幸子/作

杉田 比呂美/絵



わたしがこの本をえらんだ理由は、はじめて本の主人公になった感かくを、味わった本だからです。小学六年生のリナが、夏休みに家族とはなれて、父親の知り合いが住む町で一か月くらしします。かわり者ばかりが住むふしぎな町で、色々な事けんがおこるので、わたしは読みながらリナになって、悲しくなったりおこったり、よろこんだりしていました。夏休みが終わる時、リナはどうかわったのでしょうか。ぜひ読んでみて下さい。

### 市長賞 小学生高学年部門

小学校 6年生 Y.K さん

「ライオンと魔女」

岩波書店

C.S.ルイス/作

瀬田 貞二/訳



私がオススメするのは、この「ライオンと魔女」です。このお話は、ピーダー、スーザン、エドマンド、ルーシーの4人兄弟のナルニアという国でのぼう険を書いたものです。ナルニアの王様、ライオンのアスランや、勇しく心やさしい動物たちと共に、4人の兄弟は白い魔女と戦います。ぼう険を通して成長していく子どもたちや、かたく結ばれていく仲間、兄弟とのきずな。この本は仲間の大切さを知れる心あたたまる本です。ぜひ一度読んでみて下さい。

## 市長賞 中学生部門

中学校 3年生 M.I さん

「乱反射」

朝日新聞出版

貫井 徳郎／著



この本は、1人1人のモラル違反が原因で、1人の男の子が死亡してしまうというお話です。1人1人の違反は誰にでも心当たりのある小さな罪です。犬のフンを片付けない老人、軽い風邪程度で夜間救急を利用する若者たち、車を乗り捨ててしまう女性…。読んでいて心に痛みが何度も走りますが、ページをめくる手がとまらなくなります。また、自分はどうか振り返らずにはいられない読後感を味わうことができます。是非読んでみてください。

## 市長賞 高校生部門

高校 1年生 H.H さん

「ヒトラーと暮らした少年」

あすなる書房

ジョン・ボイン／著

原田 勝／訳



フランス人の母とドイツ人の父をもつ少年ピエロが孤児になり、ヒトラーの別荘で働く父方のおばに引き取られてからのお話です。ピエロはヒトラーに可愛いがられるうちに変わっていってしまいます。ユダヤ人である友達には手紙を出さなくなり、周囲の者にも横暴なふるまいをするようになっていきます。成長ともに大きくなっていく愛国心。無垢だった主人公が加害者へと変わっていく恐ろしさを描き私たちに引き返す勇気をもつことを訴えている作品です。

# 教育長賞 小学生低学年部門

小学校 1年生 K.N さん

「ざんねんないきもの事典」

高橋書店

ジョン・ボイン／著

原田 勝／訳



ぼくのおすすめの本は、ざんねんないきものじてんです。この中には、たくさんのざんねんないきものたちが、出てきます。ぼくのおもしろいとおもういきものは、カメガエルです。カメガエルは、はねられないし、およげないし、水にはいると、おぼれてしまうのです。ほかにも、モグラがトンネルをほるスピードは、カタツムリがすすむはやさとほぼおなじです。みなさんもたのしいから、よんでみてください。

# 教育長賞 小学生高学年部門

小学校 5年生 N.A さん

「明けない夜はないから」

フェリシモ

宮城県の子どもたち+荒井良二



この本は、東日本大震災の被災地、宮城県の子どもたち自身がミュージカルをやり、そこで歌った明けない夜はないから、という歌の歌詞がのっている本です。この本の中にあるさし絵は、全て宮城県の子どもたちと、絵本作家の荒井良二さんが書いています。そして、本の中に書いている子どもたちの思いを読むと、震災のこわさや、家族や友達といっしょにいられるありがたさが分かります。みなさんも、ぜひこの本を読んでみてください。

# 教育長賞 中学生部門

中学校 3年生 S.I さん

「そして、バトンは渡された」

文藝春秋

瀬尾 まいこ／著



『私には父親が三人、母親が二人いる。家族の形態は、十七年間で七回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ』優子の悩みは悩みがないこと。友達に無視されても、何度苗字が変わっても苦痛と感じたことはない。それは彼女がいつも愛されていたから。そして優子は『食』で家族の幸せの形を知る。本当の家族とは何か、幸せな暮らしとは何か、考えさせられる。私を愛し、支えてくれる全ての人に感謝を伝えたいくなる素敵な一冊だ。



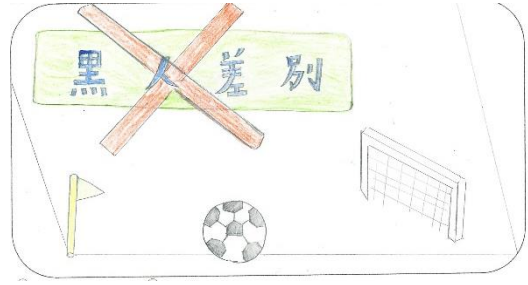
# 教育長賞 高校生部門

高校 2年生 M.K さん

「サッカーと人種差別」

文藝春秋

陣野 俊史／著



僕は「サッカーと人種差別」という題名を見て、疑問と興味を持ったのでこの本を選びました。人種差別というのは、誰もが人生で最低、一度は考えたことのある問題を扱っていると思います。例をあげるとフランス代表チームには、あんなに多くの黒人がいるのか？一方でサッカーの指導者層には、黒人が少ないのか？などサッカー界だけの問題ではないとは思いますが今までのサッカー界の差別事件について書かれている本です。

# 図書館協議会長賞 小学生低学年部門

小学校 2年生 K.O さん

「いやいやえん」

福音館書店

中川 李枝子／さく

大村 百合子／え



なんでもいやなしげるくん。ほいくえんの先生がいやいやえんをすすめてくれました。いやいやえんは、ふつうのほいくえんとちがって、やくそくがない、自ゆうなほいくえんです。ケンカしていいし、かたづけしなくていいし、いやなことはやらなくていい。先生にもおこられない。わたしは、いやいやえんを読んでルールの大切さやいいことや、わるいことを考えてこうどうできることの大切さを知りました。

# 図書館協議会長賞 小学生高学年部門

小学校 4年生 H.S さん

「100万回生きたねこ」

講談社

佐野 洋子／作・絵



この物語は、死んでもすぐに生き返る百万回生きたねこのお話です。みなさんは、百万回生きるとはどういうことだと思いますか？私は死んでもすぐに生き返るならうらやましいと最初思いました。でもこのねこはちっとも幸せではなかったのです。でも白いねこと出会ってからのねこはとても幸せそうでした。そして最後には……。初めて自分以外の誰かを好きになった時とても感動する結末が待っています。ぜひみなさんも読んでみて下さい！！

# 図書館協議会長賞 中学生部門

中学校 2年生 N.A さん

「黒猫とさよならの旅」

スターツ出版

櫻 いいよ／著



もう頑張りがたくない。高校一年生の茉莉は、ある朝、自転車で学校に向かう途中、逃げ出したい衝動に駆られてしまう。そんな時、不思議な喋る黒猫と出会った彼女は悲しい記憶や心の痛みすべてを黒猫の言葉どおり消し去ってしまいます。まわりを気にして「頑張る」ことは少しづらくて、でも今更逃げて今更頑張ってきた日常がなくなってしまうような気がして、不安になります。そこで、あえて「逃げる」選択した主人公に勇気もらえる本です。

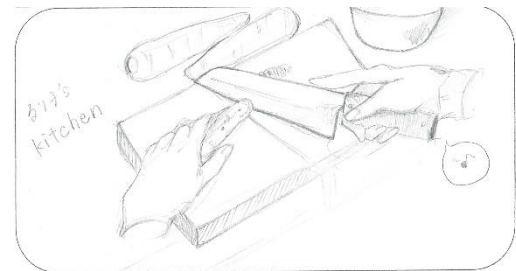
# 図書館協議会長賞 高校生部門

高校 1年生 N.A さん

「妖怪アパートの幽雅な日常」

講談社

香月 日輪／著



私が思うこの本の見どころは個性豊かなアパートの住人たちと食事のシーンです。主人公の稲葉タ士が悩んだりつまずいたりした時にかけてくれる住人たちの言葉が考えさせるような深い台詞だということです。人生経験を積んだ住人たちの言葉が強く心に残ります。もう一つは、手首だけの妖怪るり子さんのつくる絶品料理がとてもおいしそうな所です。文章で活字であんなに美味しそうな表現は他にないと思います！是非読んで頂きたいです。